2026.11.16

From Petroleum To Bio.
Bio-manufacturing changes the world.

石油から、バイオへ。
世界を塗り替える。

2026年9月期 決算説明資料・中長期ビジョン進捗レポート

～ バイオものづくりにおける統合型産業プラットフォーマーを目指して ～

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

代表メッセージ

最近の当社ビジネスを巡る環境と当社の対応



代表取締役CEO
伊原 智人

「第2創業」がスタート

2026年9月期は、当社にとってこれまでの研究開発と事業化への取り組みが着実に成果につながり、**次の成長ステージへ踏み出した一年**となりました。当社が経営指標※として位置付けている**売上高と営業外収益の合計は9期連続で増加**し、**経常利益も2期連続の黒字**となりました。研究開発を起点としながら、事業化・商業化に向けた取り組みを積み重ねてきた成果が数字でも表れ始めています。2026年7月に公表した中長期ビジョンでは、**「研究のGEI」から「稼ぐGEI」**への進化を掲げ、「第2創業」をスタートしました。目指すのは、研究開発から量産・商業化までをつなぐ**「バイオものづくりにおける統合型産業プラットフォーマー」**です。

「バイオものづくりにおける統合型産業プラットフォーマー」に向けた動き

その実現に向けた取り組みも具体化しています。**開発型バイオファウンドリ**事業においては、国のプロジェクトで培った技術・設備・ノウハウを活用した事業展開に向けた準備を進めています。**生産型バイオファウンドリ**事業では、台湾などでのOEM生産を目指しつつ、国内での自社生産も検討しています。**テクノロジーパッケージ**においては、木質バイオマス由来（森空プロジェクト®）及び製紙産業素材由来（大王製紙）の両プロジェクトで、実証プラントの建設が着実に進んでおり、また、パーム残渣由来（電源開発）のプロジェクトでは、インドネシアでのパイロットテストが動き始めました。

スタンダード市場へ（第2のIPO）

こうした当社の変化を踏まえ、**2026年9月25日**に、東京証券取引所スタンダード市場へ市場区分を変更しました。これは当社にとってゴールではなく、持続的な成長と企業価値向上を実現していくための**新たなスタートライン**であると考えています。

研究から事業へ。実証から商業化へ。そして「研究のGEI」から「稼ぐGEI」へ

2011年から15年にわたって積み上げてきた成長を、これから**本格的な収益化**につなげていく。中長期ビジョンに掲げた成長戦略を着実に実行し、**成長性と収益性を両立するGEI**への進化を加速してまいります。

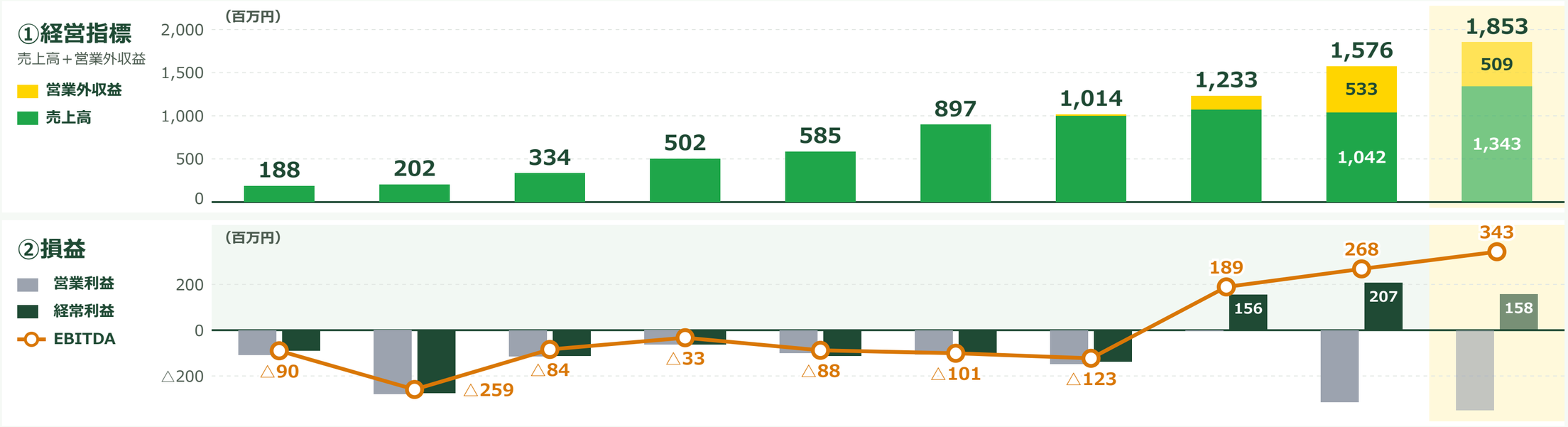
※経営指標＝売上高＋営業外収益。ここでの営業外収益は、バイオものづくりにおける補助金・助成金収入です（受取利息などは含んでおりません）。
当社の3つの事業セグメントそのものに当たるため、財務会計上は営業外収益に計上されますが、企業成長や事業規模を判断する経営指標として含めています。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

経営指標の推移

経営指標は9期連続の増加、経常利益は2期連続の黒字

当社は**「売上高＋営業外収益」**を経営指標と位置付けています。2027年9月期業績予想では、10期連続の増加を計画しています。



（百万円）	2018.9期※	2019.9期	2020.9期	2021.9期	2022.9期	2023.9期	2024.9期	2025.9期	2026.9期	2027.9期（予想）
経営指標	188	202	334	502	585	897	1,014	1,233	1,576	1,853
売上高	188	202	334	502	585	897	1,002	1,075	1,042	1,343
営業外収益	—	—	—	—	—	—	12	158	533	509
営業利益	△108	△280	△114	△63	△99	△106	△148	△4	△314	△350
経常利益	△90	△275	△113	△63	△113	△108	△138	156	207	158
EBITDA	△90	△259	△84	△33	△88	△101	△123	189	268	343

百万円未満切捨て。2019年9月期～2025年9月期の経常利益は、各期有価証券報告書より。EBITDA＝経常利益＋減価償却費。営業外収益の「—」は、該当する補助金・助成金収入がないことを示します。
※2018年9月期の数値は、会社計算規則（平成18年法務省令第13号）の規定に基づき算出したものであり、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査を受けておりません。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

目次

本資料は**「決算報告」と「中長期ビジョン進捗レポート」を一体化**し、下記の5セクションで構成しています。

01 エグゼクティブサマリー P. 05
3つのPOINTで振り返る
2026.9期実績・2027.9期業績予想・中長期ビジョンの進捗

02 2026年9月期 実績 P. 06 – 12
主要指標・業績予想との比較・前期実績との比較・売上高
販管費・貸借対照表・重要変動科目・キャッシュフロー

03 2027年9月期 業績予想 P. 13 – 16
業績予想サマリー・営業利益が赤字になる理由
経常利益とEBITDA・2027年9月期のマイルストーン

04 中長期ビジョンの進捗 P. 17 – 29

- ・パイプライン全体マップ P. 17
- ・今回から新たに加わるパイプライン P. 18 – 22
  - ・米由来バイオエタノール（Golden Rice Circle Project） P. 18 – 20
  - ・木質バイオマス由来バイオイソブタノール P. 21
  - ・飼料・農業関係の新製品 P. 22
- ・新規パイプラインに向けた動き P. 23
  - ・国の方向性と、その流れの活用 P. 24
- ・開発型バイオファウンドリ P. 25
- ・生産型バイオファウンドリ P. 26 – 28
  （化粧品原料等／食品関係／飼料・農業関係）
- ・テクノロジーパッケージ P. 29

05 株主・投資家の皆さまへ P. 30 – 36
IRコミットメント・公式Xのご案内
説明動画のお知らせ・説明会のお知らせ
（個人投資家向け／機関投資家向け）・最後に・免責事項

P. 36に免責事項および将来見通しに関する注意事項を掲載しています。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

01 ー エグゼクティブサマリー

本資料の要点を、3つのPOINTでご説明

2026年9月期の実績 ／ 2027年9月期の業績予想 ／ 中長期ビジョンの進捗を、それぞれ結論から。

POINT 01 2026年9月期 実績

経営指標は9期連続の増加
業績予想を上回って着地

経営指標（百万円）

2025.9期 1,233 → 2026.9期 **1,576**

前期比 ↑ +342（+27.8%）

経常利益（百万円）

2025.9期 156 → 2026.9期 **207**

前期比 ↑ +50（+32.2%）

詳しくは P. 06 – 12

POINT 02 2027年9月期 業績予想

研究開発フェーズから
生産フェーズへの移行が始まる

経営指標（百万円）

2026.9期 1,576 → 2027.9期予想 **1,853**

前期比 ↑ +277（+17.6%）

経常利益（百万円）

2026.9期 207 → 2027.9期予想 **158**

前期比 ↓ △48（△23.4%）

詳しくは P. 13 – 16

POINT 03 中長期ビジョンの進捗

新たに3件が加わり
パイプラインは19へ

今回から新たに加わるパイプライン

- 米由来バイオエタノール
  （Golden Rice Circle Project）
- 木質バイオマス由来バイオイソブタノール
- 飼料・農業関係の新製品

新規パイプラインに向けた動き

生産型バイオファウンドリの国内自社生産を検討

詳しくは P. 17 – 29

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

02 — 2026年9月期 実績 | 主要指標

経営指標は、9期連続の増加

2026年9月期（2025年10月～2026年9月）実績。経営指標とその内訳、損益の主要指標。

経営指標 売上高＋営業外収益 **1,576** 百万円 前期比 +27.8% 9期連続の増加

売上高 **1,042** 百万円 ＋ 営業外収益 **533** 百万円

受託開発
開発型バイオファウンドリ
687 百万円
（売上高比率：65.9%）
NEDO事業などの大型案件を計上。

商用化の準備
生産型バイオファウンドリ
6 百万円
（売上高比率：0.6%）
マイコプロテイン。

プラント建設・稼働
テクノロジーパッケージ
348 百万円
（売上高比率：33.4%）
製紙産業素材由来（大王製紙）が中心。

補助金収入
バイオものづくり革命推進事業（NEDO）
国家プロジェクト（以下、国プロ）の補助金。
製紙産業素材由来（大王製紙） **453** 百万円
木質バイオマス由来（森空） **79** 百万円

営業利益 △**314** 百万円

経常利益 **207** 百万円 前期比 +32.2%

EBITDA
経常利益＋減価償却費
268 百万円 前期比 +41.7%

補助金収入533百万円が営業損失を上回り、2期連続の経常黒字。詳しくはP.7～P.12をご覧ください。

※百万円未満を切り捨てています。

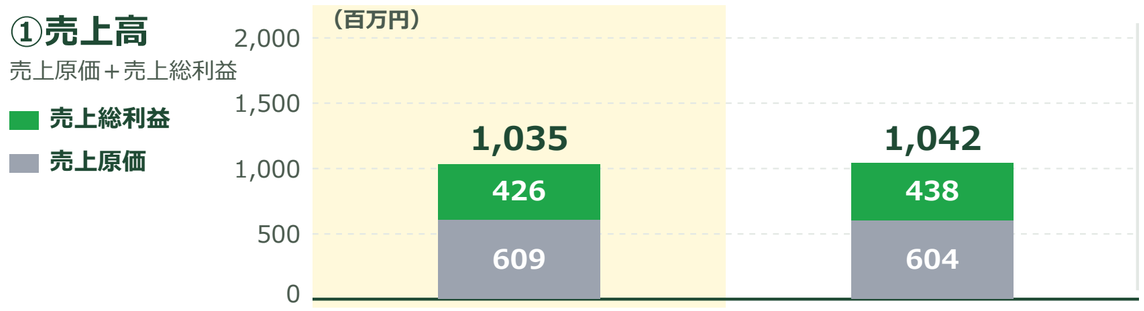
© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

02 ― 2026年9月期 実績｜業績予想との比較

業績予想を上回って着地

①売上高

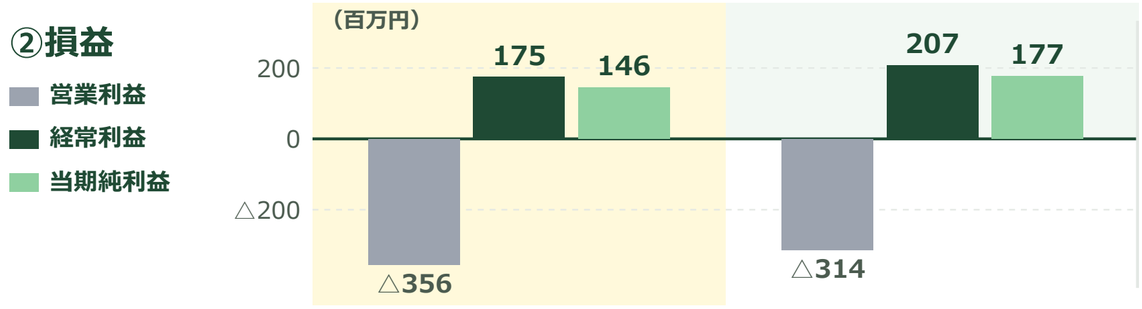
売上原価＋売上総利益



▌売上高：予想どおりの着地（+7百万円）

- ✓ 売上高は1,042百万円（業績予想比+0.7%）、売上総利益は438百万円（同+11百万円）。
- ✓ 4Qに以下の大型案件を売上計上（3Q時点の想定どおり）
  - ・ **開発型バイオファウンドリ：**バイオファウンドリ事業／GI基金
  - ・ **テクノロジーパッケージ：**製紙産業素材由来（大王製紙）／森空バイオリファイナリー

②損益



▌営業利益：予想比 42百万円改善（△356 → △314）

- ✓ 主因は**採用関連費用（人件費・採用費）の圧縮**（予想比△48百万円）。
  - ・ 予算上はエージェント経由での採用費として計上しているが、会社認知度向上等により自社ホームページ経由の直接採用が増加。
- ✓ NEDO事業の補助金収入**533百万円**を営業外収益に計上し、経常利益は2期連続の黒字。

（百万円）	業績予想（2026.9期）	実績（2026.9期）	増減額	増減率
売上高	1,035	1,042	+7	+0.7%
営業利益	△356	△314	+42	―
経常利益	175	207	+32	+18.6%
当期純利益	146	177	+31	+21.3%

百万円未満切捨て。

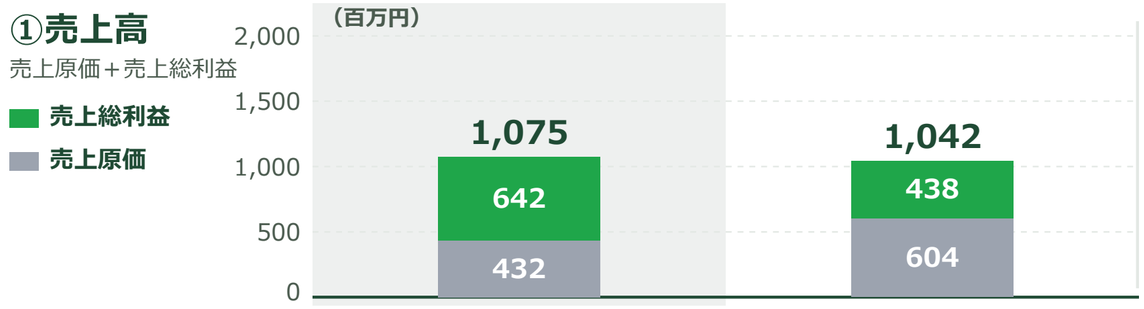
© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

02 — 2026年9月期 実績｜前期実績との比較

売上総利益の減少は、前期の原価を伴わないライセンス収入による反動

①売上高

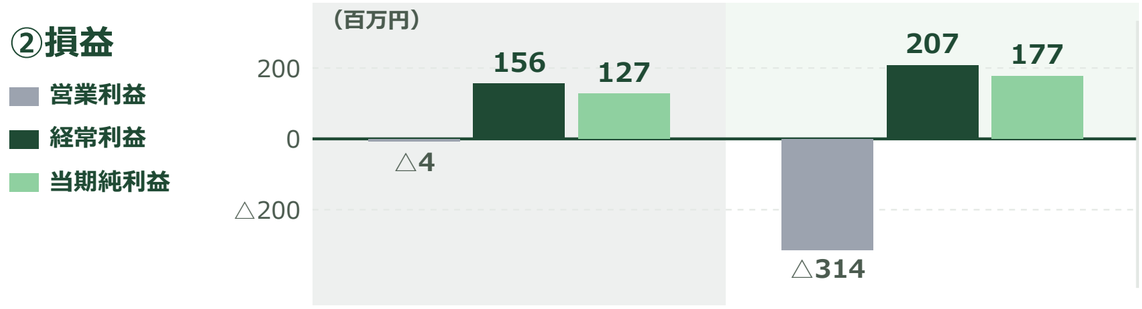
売上原価＋売上総利益



▌売上総利益：前期比 △204百万円（642 → 438）

- ✓ 前期は**原価を伴わないライセンス収入226百万円**（技術移転、技術使用許諾、ロイヤリティなど）を計上。その反動で売上総利益が減少。
- ✓ 売上高は1,042百万円（前期比△3.1%）、売上原価は604百万円（同+171百万円）。

②損益



▌経常利益：前期比 +50百万円（156 → 207）

- ✓ 販管費は753百万円（前期比+106百万円）で、営業利益は△314百万円。
- ✓ 営業外収益539百万円（うち補助金収入533百万円）を計上し、経常利益は2期連続の黒字。当期純利益は177百万円（同+49百万円）。

（百万円）	前期実績（2025.9期）	実績（2026.9期）	増減額	増減率
売上高	1,075	1,042	△32	△3.1%
営業利益	△4	△314	△310	—
経常利益	156	207	+50	+32.2%
当期純利益	127	177	+49	+39.1%

百万円未満切捨て。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

02 — 2026年9月期 実績 | 売上高

売上高1,042百万円の3分の2は、開発型バイオファウンドリ

通期（2025年10月～2026年9月）の事業別の売上高と売上高比率。

開発型バイオファウンドリ

687百万円（売上高比率：65.9%）

■ 内訳

- NEDOバイオファウンドリ事業
- GI基金
- セルロース由来（住友林業）
- その他

生産型バイオファウンドリ

6百万円（売上高比率：0.6%）

■ 内訳

- マイコプロテイン

今後、海外でのOEMの形で、食品関係、飼料・農業関係、化粧品原料等へ拡大予定。

テクノロジーパッケージ

348百万円（売上高比率：33.4%）

■ 内訳

- 製紙産業素材由来（大王製紙）
- 森空バイオリファイナリー

■ 通期のポイント

4QにNEDO事業（バイオファウンドリ事業・GI基金）を、検収を経て仮受金から売上へ振替え。
テクノロジーパッケージは製紙産業素材由来（大王製紙、3月・9月）の開発費が中心。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

02 — 2026年9月期 実績 | 販管費

販管費753百万円の約半分は、研究開発費

通期（2025年10月～2026年9月）の販管費の内訳と販管費比率。

研究開発費

364百万円 （販管費比率：48.4%）

パイプラインの進捗の加速。食品関係、飼料・農業関係、化粧品原料等の領域での実証案件が拡大。テクノロジーパッケージ受注に向けた基盤研究も継続。

人件費

277百万円 （販管費比率：36.8%）

役員報酬・給料手当・法定福利費 他。2031年目標に向けた人材採用を継続。

その他

111百万円 （販管費比率：14.8%）

支払報酬（監査・法律・IR等）、租税公課、支払手数料、採用費 他。

研究開発費 364百万円の内訳

消耗品費

65百万円
（研究開発費比率：18.1%）

試薬・培地・実験器具等。

支払手数料

41百万円
（研究開発費比率：11.2%）

外部分析・受託研究の委託手数料、知財関連費用。

人件費（研究員）

145百万円
（研究開発費比率：39.8%）

給料手当 ／ 人材派遣 ／ 法定福利費 ／ 通勤費。

その他

112百万円
（研究開発費比率：30.9%）

減価償却費 ／ 水道光熱費 ／ 修繕費 ／ 支払報酬 他。

※百万円未満を切り捨てています。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

02 — 2026年9月期 実績 | 貸借対照表

勘定科目別の 構造変化

2026年9月末のBSを前期末と比較。**★印の3科目**が変動の主因（詳細は次スライドで解説）。

（単位：百万円）

勘定科目	2025年9月30日	2026年9月30日	増減額	P.12 参照
【 資産の部 】				
現金及び預金 ★	2,059	1,550	△508	重要変動 01
建設仮勘定 ★	24	650	+626	重要変動 02
出資金 ★	5	91	+86	重要変動 03
その他の資産	879	786	△93	
総資産	2,967	3,077	+110	
【 負債の部 】				
仮受金	508	482	△26	
その他の負債	353	315	△38	
負債合計	861	797	△64	
純資産合計	2,106	2,280	+174	

▶ 次スライド（P.12）にて、★印の重要変動科目3件（現金及び預金／建設仮勘定／出資金）とキャッシュ・フローを解説。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

02 — 2026年9月期 実績｜重要変動科目・キャッシュフロー

2031年目標に向け、現金を投資へ振り向けた1年

前期末から大きく動いた3科目と、その背景となる1年間のキャッシュ・フロー。

（単位：百万円）

重要変動科目 01
現金及び預金
1,550百万円
前期末 2,059 △**508**
プラント建設・出資への投資により減少。自己資本比率は74.1%。

重要変動科目 02
建設仮勘定
650百万円
前期末 24 **+626**
製紙産業素材由来（大王製紙）のパイロットプラントの建設が本格化。2027年稼働に向け進捗。

重要変動科目 03
出資金
91百万円
前期末 5 **+86**
森空バイオリファイナリーへの出資。

▶ キャッシュ・フロー（2025年10月～2026年9月）

営業キャッシュ・フロー
+459
補助金の受取額 +533
売上債権の減少 +181
小計（補助金受取前）△41

投資キャッシュ・フロー
△854
有形固定資産の取得 △758
出資金（森空BR）△86
無形固定資産の取得 △8

財務キャッシュ・フロー
△113
長期借入金の返済 △108
リース債務の返済 △5

現金及び現金同等物
△508
期首 2,059 → 期末 **1,550**
生産基盤への先行投資期。

※ 金額は百万円未満を切り捨てています。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

03 ー 2027年9月期 業績予想｜サマリー

研究開発フェーズから、生産フェーズへの移行が始まる

2027年9月期（2026年10月～2027年9月）業績予想。経営指標とその内訳、損益の主要指標。

経営指標 売上高＋営業外収益 **1,853** 百万円 前期比 +17.6% **10期連続の増加を計画**

売上高 **1,343** 百万円 ＋ 営業外収益 **509** 百万円

受託開発
開発型バイオファウンドリ
490 百万円
（売上高比率：36.5%）
国プロと民間の受託。2027年4月から民間サービスを本格提供。

商用化の準備
生産型バイオファウンドリ
56 百万円
（売上高比率：4.2%）
商用サンプル生産が4製品へ。2028年9月期以降に商用生産へ。

プラント建設・稼働
テクノロジーパッケージ
761 百万円
（売上高比率：56.7%）
建設中の案件の売上が中心。2027年にプラント稼働へ。

補助金収入
バイオものづくり革命推進事業（NEDO）
国プロの補助金。3つの事業セグメントにあたる収益。
製紙産業素材由来（大王製紙） **448** 百万円
木質バイオマス由来（森空） **61** 百万円

営業利益 **△350** 百万円

経常利益 **158** 百万円 前期比 △23.4%

EBITDA（経常利益＋減価償却費） **343** 百万円 前期比 +28.0%

開発型バイオファウンドリとテクノロジーパッケージで収益を確保しつつ、生産型バイオファウンドリの商用化を進める。それが2027年9月期の業績予想です。
経営指標は10期連続増、経常利益は3期連続黒字を目指します。

※百万円未満を切り捨てています。上記のほか「その他」35百万円（売上高比率：2.6%）があります。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

03 — 2027年9月期 業績予想 | 営業利益が赤字になる理由

営業利益が赤字になる、2つの理由

売上高は前期比+28.9%増、営業利益は△314百万円から△350百万円へ。理由は、補助事業の会計処理と先行投資の減価償却です。

売上高	1,042百万円	▶	1,343百万円	+301百万円	営業利益	△314百万円	▶ △350百万円	△36百万円

01 国の補助事業：収益は営業外、費用は販管費

収益	補助金収入 509百万円	▶	営業外収益
費用	補助事業にかかる研究開発費など	▶	販管費

同じ補助事業でも、会計上、収益は営業外収益、費用は販管費に分かれて計上されます。そのため**営業損益には費用だけが表れ、赤字が大きく見えます**。収益と費用がそろうのは経常利益です。

02 成長への先行投資：減価償却費が本格化

2026.9期 実績	減価償却費 60百万円		
2027.9期 予想	減価償却費 184百万円	▶	+123百万円

新設備の稼働により、2027年9月期から**減価償却費184百万円（前期比+123百万円）**が本格的に発生します。現金の支出を伴わない費用で、営業利益を押し下げます。

営業損失は、この2つの要因によるもの。事業の実態は次ページをご覧ください。

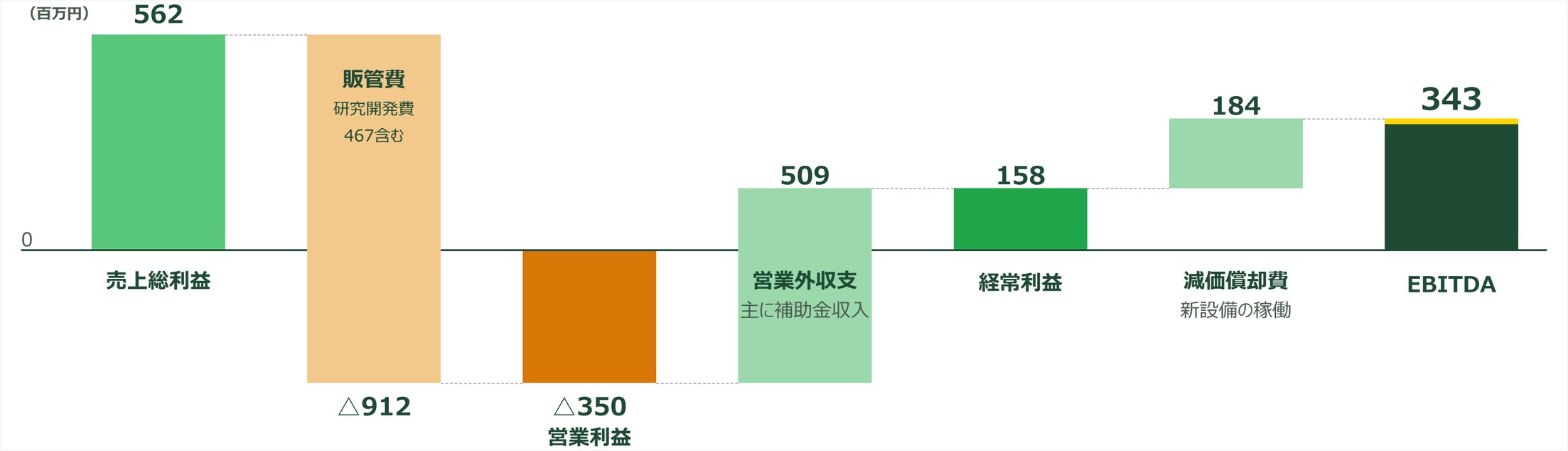
※百万円未満を切り捨てています。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

03 — 2027年9月期 業績予想 | 経常利益とEBITDA

実態は、経常利益158百万円・EBITDA343百万円の黒字

売上総利益からEBITDAまでのブリッジ（2027年9月期業績予想）。当社EBITDA＝**経常利益＋減価償却費**。



01　経常利益は158百万円の黒字

2026.9期 実績207百万円。2025年9月期から3期連続の経常黒字を計画。

02　EBITDAは343百万円

2026.9期 実績268百万円から+75百万円。減価償却費184百万円を足した稼ぐ力。

03　2031年目標に向けて

EBITDAの2031.9期目標650百万円に対し、5割超の水準まで到達。

※百万円未満を切り捨てています。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

03 ー 2027年9月期 業績予想 | 2027年9月期のマイルストーン

カギは、民間サービス本格提供・サンプル4製品・プラント稼働

2027年9月期の売上高を事業別に、**業績予想達成のポイント**と主要マイルストーンを四半期単位でご説明。



※スケジュールはP.25～P.29の計画に基づくもので、変更となる可能性があります。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗｜パイプライン全体マップ

2階建ての成長エンジンと19パイプライン（16＋新規3）の対応関係

2F

対象パイプライン 4

バイオ燃料エネルギー革命

国家プロジェクト規模のエネルギー革命。
圧倒的スケールで世界市場にチャレンジする**「夢のエンジン」**。

テクノロジーパッケージ　全4PJ

- **木質バイオマス由来（森空）**
- **製紙産業素材由来（大王製紙）**
- **パーム残渣由来（電源開発）**
- **米由来バイオエタノール（イーレックス）** ▶ P.18 **＋1 新規**

1F

対象パイプライン 19

バイオ製品＋バイオ燃料

食品関係、飼料・農業関係、化粧品原料等＋
航空燃料（SAF）・バイオエタノール。
大手メーカーとの協業で、
早期にキャッシュを生み出す**「稼ぐエンジン」**。

開発型バイオファウンドリ　全4件

- **バイオファウンドリ事業関連**
  NEDOバイオファウンドリ事業（2021～2026年度）
- **CO2由来のバイオ化学品**
  NEDOグリーンイノベーション基金事業（2025年度終了）
- **セルロース・ヘミセルロース・リグニン由来のバイオ化学品**
  住友林業
- **木質バイオマス由来バイオイソブタノール** **＋1 新規**
  東京都 ナフサ代替素材等開発支援事業 ▶ P.21

生産型バイオファウンドリ　全11製品

- **化粧品原料等（4製品）**
  A / B / C / D
- **食品関係（3製品）**
  マイコプロテイン / NMN / 食品関係 A
- **飼料・農業関係（3製品＋1）**
  A / B / C / **D** **＋1 新規** ▶ P.22

テクノロジーパッケージ　全4PJ

- **木質バイオマス由来（森空）**
- **製紙産業素材由来（大王製紙）**
- **パーム残渣由来（電源開発）**
- **米由来バイオエタノール（イーレックス）** **＋1 新規** ▶ P.18

※ 中長期ビジョン（2026年7月15日開示）で示した2階建てビジョンとの対応です。**1F＝現在推進中の3事業のパイプラインが売上・利益の基盤です。2F＝1Fで確立したテクノロジーパッケージが、バイオ燃料エネルギー革命の起点となります。**
※ 従来の16パイプラインの2026.9期～2031.9期の「計画 vs 実績」四半期別マトリクス、および2026.9期末時点の現在地は、ガントチャートの形で、P.25～29で開示しています。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗｜今回から新たに加わるパイプライン①｜米由来バイオエタノール

ベトナムで、米からバイオエタノールへ。将来2Fにつながる1Fの新規パイプライン

2026年11月6日 開示
開示資料はこちら ▶

イーレックス株式会社と共同で**「Golden Rice Circle Project」**を推進。余剰米・低位利用米からバイオエタノールとタンパク質をつくる事業です。

01　なぜベトナムか

- **エネルギー**　E10ガソリンの義務化で、燃料用エタノールの需要が急増。供給能力が不足
- **農業**　余剰米・農業残渣を高付加価値に使い、農家所得を向上
- **食料**　将来のタンパク質不足に、米由来タンパク質で対応
- **脱炭素**　農業由来資源の循環利用で石油を代替
- **日本**　日本技術の海外展開。日本向けバイオエタノール供給源としての活用も視野

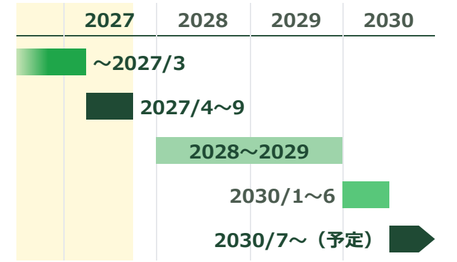
02　FSで行うこと

- **原料**　もみ殻・稲わら・米の確保策
- **技術**　ベトナム米を使ったバイオエタノール収量などの実験・検証
- **設計**　プラント・設備の概略設計
- **出口**　エタノール・タンパク質のオフテイカー探索、発酵CO_2・発酵残渣の出口検討
- **事業性**　事業計画の策定、LCA（環境負荷）の算出

原料から製品までの流れと数量のイメージは、P.19をご覧ください。

03　役割分担とスケジュール

GEI：糖化・発酵技術、プロセス設計、LCA
イーレックス：原料確保、政府協議、事業計画



★ FSは国の補助事業に採択
経済産業省 令和7年度「資源国脱炭素化・エネルギー転換技術等支援事業費補助金」

1F：テクノロジーパッケージ　▶　将来の2F：バイオ燃料エネルギー革命（国単位での展開）
まずは1Fのテクノロジーパッケージとして推進。将来、国単位の展開に進めば、中長期ビジョンの2Fにつながります。

※スケジュールは計画段階のもので、FSの結果等により変更となる可能性があります。パイプラインのガントチャートには、2027年9月期1Q決算説明資料から「米由来バイオエタノール」として追加する予定です。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗｜今回から新たに加わるパイプライン①｜米由来バイオエタノール

稲を余すことなく使う、Golden Rice Circle Project

米からはエタノールと飼料向けタンパク質を、もみ殻・稲わらからは電力をつくります（数量は年間のイメージ）。



稲のすべてを、燃料・飼料・電力に。ベトナムのエネルギー・農業・食料の課題に応えます。

※数量は年間の参考イメージです。現在FSを実施中であり、原料調達条件、プロセス設計および事業性評価の結果により変更となる可能性があります。
※写真はAI生成によるイメージです。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗｜今回から新たに加わるパイプライン①｜米由来バイオエタノール

新たなパートナーは、東証プライム上場のイーレックス

Golden Rice Circle Projectのパートナーは、バイオマス発電を手がける総合エネルギー企業。ベトナムでも事業を展開しています。

01　イーレックスの会社概要

社名	イーレックス株式会社
上場	東京証券取引所プライム市場（9517）
設立	1999年12月
資本金	184億円
従業員数	302人（連結）
事業	小売電気、トレーディング、蓄電池・アグリゲーション、燃料、発電、海外、カーボンクレジット

02　バイオマス発電とベトナム

2013年	初の自社バイオマス発電所（土佐発電所）が商業運転開始
2016年～	国内各地でバイオマス発電所を順次稼働
2023年	ベトナムで現地法人を設立
2025年3月	ベトナムで木質ペレットの製造を開始
2025年12月	ベトナム・ハウジャンバイオマス発電所が商業運転開始

03　大企業との協業が、また一つ

当社パイプラインの主な協業先

日本製紙	住友商事
日本航空	大王製紙
電源開発	住友林業

＋1 新規　イーレックス

各業界を代表する企業との協業は、当社の糖化・発酵技術が評価されている証です。

イーレックスのバイオマス発電と事業基盤に、当社の糖化・発酵技術を組み合わせる。
大企業との協業でパイプラインを推進する当社のスタイルを、また一つ海外へ広げます。

※出典：イーレックス株式会社ウェブサイト「会社概要」（2026年3月31日現在）・「沿革」。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗｜今回から新たに加わるパイプライン②｜木質バイオマス由来バイオイソブタノール

木質バイオマスを、化学品原料バイオイソブタノールへ

2026年10月30日 開示
開示資料はこちら ▶

東京都**「ナフサ代替素材等開発支援事業」に採択**（2026年10月30日開示）。バイオエタノールで培った発酵・精製技術を、化学品原料へ展開します。

01　なぜバイオイソブタノールか

背景　中東情勢などにより、ナフサの安定調達に不確実性が高まる

代替　再生可能な木質バイオマスから製造されるナフサ代替化学品原料

用途　樹脂、接着・粘着剤、ゴム等の幅広い化学品の原料や溶剤として利用可能

広がり　さまざまな化学品につながるプラットフォーム化学品

02　本事業で行うこと

発酵　イソブタノールの連続発酵生産条件の検討

精製　発酵と分離・精製を組み合わせたプロセスの検討

事業開発　2028年度末までに製品サンプルを取得するとともに製造コストの試算を行い、化学メーカー・素材メーカー・ユーザー企業等との事業開発体制を構築

03　GEIの技術と支援内容

GEIの技術　GWEプロセスを含む木質バイオマス由来バイオエタノールの製造技術。連続発酵・減圧抽出など、商用化を見据えた発酵・精製技術

支援内容　開発経費の支援と、専門家の助言・連携企業とのマッチングなどの伴走支援

期間　最長3か年度

★ 東京都の支援事業に採択
東京都 産業労働局「ナフサ代替素材等開発支援事業」
（採択された2社のうちの1社）

1F：開発型バイオファウンドリ　▶　将来のテクノロジーパッケージへ

開発型バイオファウンドリの1つとして始め、将来はテクノロジーパッケージとしての展開を目指します。

※出典：当社2026年10月30日開示、東京都報道発表（2026年10月29日）。パイプラインのガントチャートには、2027年9月期1Q決算説明資料から「木質バイオマス由来バイオイソブタノール」として追加する予定です。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗 | 今回から新たに加わるパイプライン③ | 飼料・農業関係

製造受託という形で、農業関係製品の商用生産へ

非開示
パートナー企業との取り決めにより、詳細は非開示

国内化学メーカーと、**農業関係製品の商用生産に向けた製造委託の検討**を進めます。生産型バイオファウンドリの新たな製品です。

01　案件の概要

相手先	国内化学メーカー
製品	相手先が持つ農業関係の製品
区分	生産型バイオファウンドリ（飼料・農業関係）
形態	当社が製造を受託し、協力先での生産（OEM）を含めて検討
当社の役割	生産プロセスの確認・最適化、技術指導、製造コストの算出

02　検討の進め方

フェーズ1	協力先でのラボスケール生産と評価、製造コストの算出 **～2027年2月**
フェーズ2	協力先での商用スケールの生産実証 （内容・時期はフェーズ1の結果を踏まえて協議）
その後	条件がまとまれば、製造委託契約を結び商用生産へ

03　生産型バイオファウンドリの製品が、11製品へ

これまで **10製品** ▶ 今回から **11製品**

飼料・農業関係	3製品 ＋1製品（D）
パイプライン	全19件

1F：生産型バイオファウンドリ　▶　製造受託による商用生産

化学メーカーの製品を当社が製造受託し、生産型バイオファウンドリの製品の広がりを目指します。

※内容・時期は検討中であり、今後変更となる可能性があります。パイプラインのガントチャートには、2027年9月期1Q決算説明資料から「飼料・農業関係 D」として追加する予定です。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ― 中長期ビジョンの進捗｜新規パイプラインに向けた動き（1／2）

スケールアップの実績を、国内での自社生産へつなげる

開発型バイオファウンドリで培ったスケールアップの実績を土台に、**数十kL規模の商用設備による国内自社生産**を検討しています。

01　これまでの実績



写真　当社研究所の3,000L・300L培養槽

- **十数件**のスケールアップ検討を完了
- 10L→3,000Lのスケールアップで**生産性約3倍**の実績あり
- 一部の製品は、ユーザーの要望によりOEMによる実生産も検討

02　検討していること

対象	化粧品原料等・食品関係など、バイオものづくりの高付加価値製品
規模	**数十kL規模**の商用設備
形態	国内での自社生産（台湾などでのOEM生産と並行して検討）
原料	国内資源の活用
連携	地域の企業・自治体などとの連携も視野に検討
流れ	開発型バイオファウンドリで培養条件の最適化・スケールアップ・サンプル製造を行った製品を、自社設備で商用生産へ

03　実現すれば、1Fの上振れへ

開発型
バイオファウンドリ
3kL級
スケールアップ
サンプル製造

▶

生産型
バイオファウンドリ
数十kL級
商用生産
（国内自社生産）

中長期ビジョンの1F目標（2031年9月期）は、従来の16パイプラインの計画に基づいています。

国内自社生産が実現すれば、生産型バイオファウンドリの製品と販売量が広がり、1F目標に対する上振れ要因となります。

開発型バイオファウンドリで育てた製品を、自社の商用設備で生産へ。
研究開発から商用生産までを一貫して担い、「稼ぐGEI」への転換を進めます。

※対象の製品、設備の規模などは検討中であり、今後変更となる可能性があります。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗 | 新規パイプラインに向けた動き（2／2）

国内の製造設備を増やす国の流れを、当社の成長に生かす

国は「戦略17分野 官民投資ロードマップ」のバイオものづくりで、国内の製造設備を増やす目標と、設備投資リスクを低減する政策を掲げています。

01　国が掲げる目標

戦略17分野 官民投資ロードマップ（2026年7月21日）
バイオものづくり

達成すべき戦略的な目標（抜粋）

国内資源の活用拡大及び
国内バイオ製造設備の増加

2040年 売上目標
11.9兆円
グローバルシェア10%

官民投資
12.8兆円
2040年度までの想定

02　国が講じる政策

講じるべき政策パッケージ（抜粋）

バイオ製造にかかる
設備投資リスク低減
例：設備投資・運営費の支援、公的な受託ファウンドリの設置

想定される投資内容（抜粋）

- 生産拠点整備（パイロット・デモ規模、**商用規模**）のための投資
- バイオ製造技術の開発・高度化のための投資

03　当社は、この流れを活用

国の政策の流れを活用し、設備投資リスクを抑えながら、数十kL規模の商用設備による国内自社生産の実現を目指します。

国内資源の活用と地域との連携による、生産拠点づくりを検討しています。

ロードマップが示す「勝ち筋」と当社の強み

国は、培養・発酵・スケールアップなどの**「ウェット」領域**の成熟度が国際競争力を左右するとしています。

当社は、開発型バイオファウンドリで十数件のスケールアップ検討を完了しており、この領域で強みを持ちます。

「国内バイオ製造設備の増加」という国の目標と、当社の国内自社生産の検討は同じ方向を向いています。
政策の流れを活かし、高付加価値領域の生産型バイオファウンドリ事業の拡充を目指します。

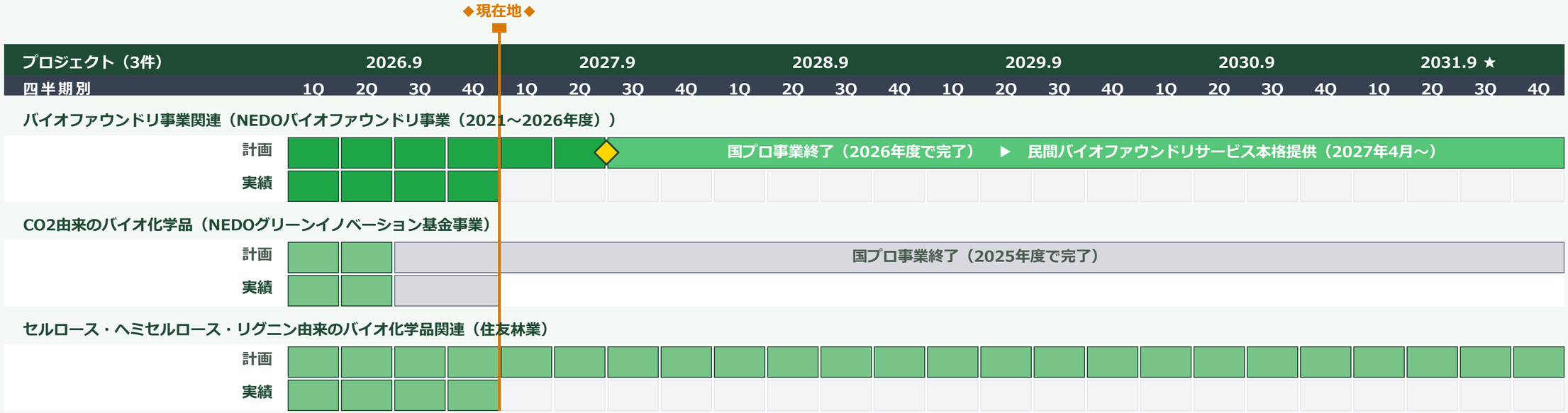
※出典：戦略17分野 官民投資ロードマップ（2026年7月21日）P.185～187。当社の設備計画は検討中で、内容・時期は今後変更となる可能性があります。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗｜1F 稼ぐエンジン｜開発型バイオファウンドリ

共同研究・受託プロジェクトの進捗を、四半期単位でご説明

凡例 研究開発 生産実証 国プロ事業終了 民間バイオファウンドリサービス ◇2027.9期の主要マイルストーン（P.16）



▶ 現在地｜2026年9月期4Q（2026年9月末）時点の進捗

バイオファウンドリ事業関連

・前処理から生産プロセスの最適化、スケールアップ及びサンプル生産に至るまで、一貫した開発支援を提供。これまでに17件の生産実証プロジェクトを推進。
・2027年4月以降、本拠点の機能を自社サービスとして展開し、バイオものづくりの社会実装を目指す企業・研究機関向けに「バイオファウンドリサービス」として本格提供。
（関連開示資料：2026.6.10）
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/c0648afc/c75b/4636/91b3/93658b11656e/140120260610566863.pdf

CO2由来のバイオ化学品

NEDOグリーンイノベーション基金事業として2025年度（2026年3月末）で終了。

セルロース・ヘミセルロース・リグニン由来のバイオ化学品関連

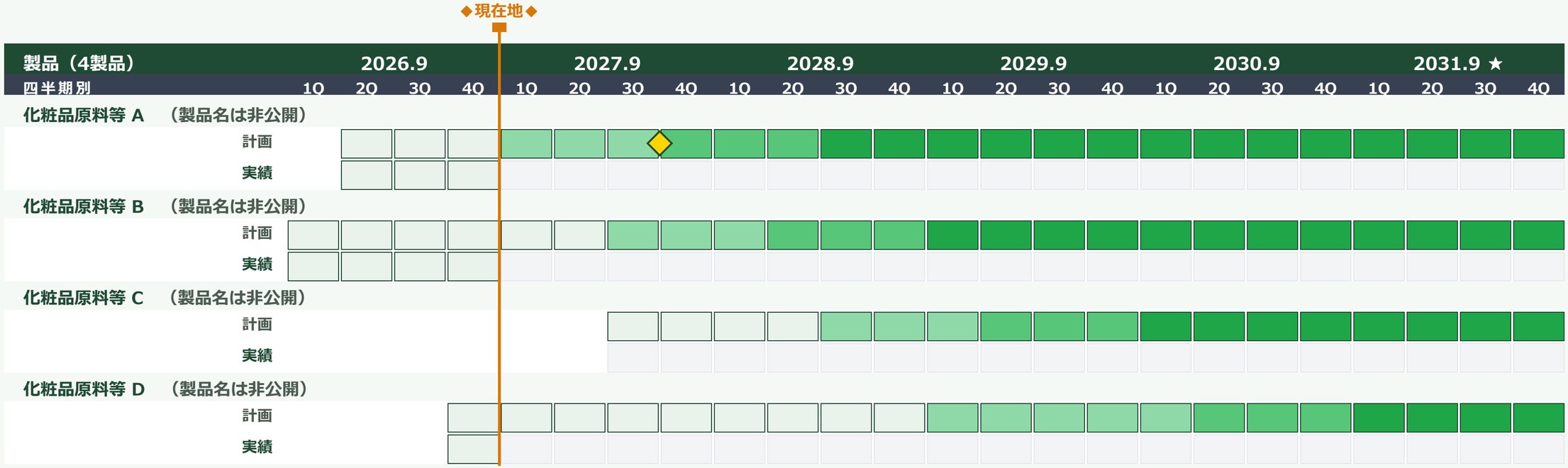
・住友林業が開発しているバイオ製品のプロセス開発等の研究開発を共同で実施（関連開示資料：2023.11.15）。
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/3b4f1c95/1e17/45a8/aeba/6c6df44be5a7/140120231115590825.pdf

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗｜1F 稼ぐエンジン｜生産型バイオファウンドリ｜化粧品原料等

化粧品原料等 4製品の進捗を、四半期単位でご説明

凡例 □ 生産技術検証 ■ パイロットテスト ■ 商用サンプル生産 ■ 商用生産 ◇ 2027.9期の主要マイルストーン（P.16）



▶ 現在地｜2026年9月期4Q（2026年9月末）時点の進捗

化粧品原料等 4製品が商用化に向けて進捗中。海外OEM候補企業・パートナー企業との連携により、各製品で生産実証フェーズを推進。

化粧品原料等 A
・海外のOEM候補企業でのパイロットテストの前に菌体の更なる開発を実施中。

化粧品原料等 B
・海外のOEM候補企業でのラボテスト準備中。

化粧品原料等 C
パートナー企業による精製プロセスの条件確立中。

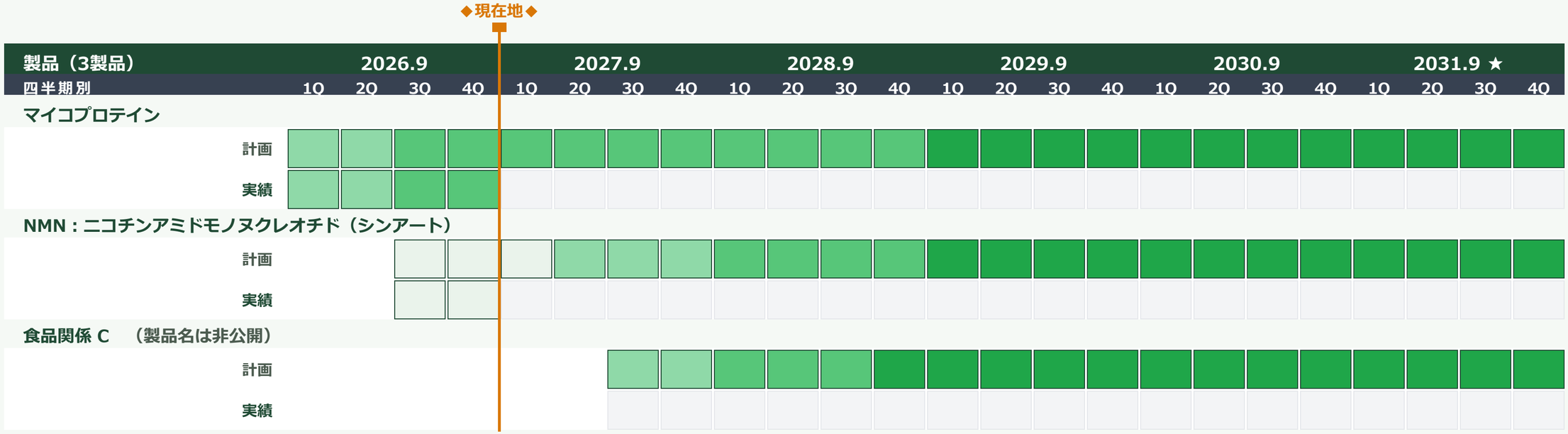
化粧品原料等 D
パートナー企業と共同で生産技術実証の計画中。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗｜1F 稼ぐエンジン｜生産型バイオファウンドリ｜食品関係

食品関係 3製品の進捗を、四半期単位でご説明

凡例 □ 生産技術検証 ■ パイロットテスト ■ 商用サンプル生産 ■ 商用生産 ◆ 2027.9期の主要マイルストーン（P.16）



▶ 現在地｜2026年9月期4Q（2026年9月末）時点の進捗

食品関係 3製品が商用化に向けて進捗中。NMNはライセンス取得後のOEM生産へ、食品関係 Cはパートナー企業によるマーケティングへ進展。

マイコプロテイン

・商用サンプルの販売
・商用サンプルに対するランニングロイヤリティ。

NMN：ニコチンアミドモノヌクレオチド（シンアート）

・NMNの生産技術の再現性確認完了
・海外のOEM企業での実証の準備中
（関連開示資料：2026.4.16）
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/8e1fb56f/7fbf/4ca3/a62e/168f16d2bccd/140120260416505108.pdf

食品関係 C

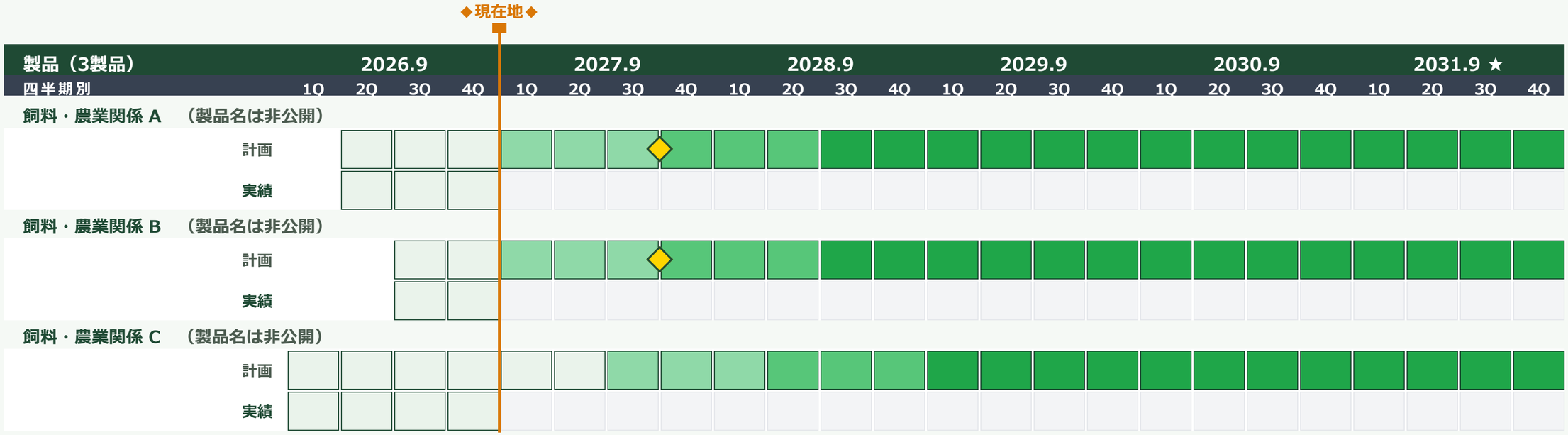
生産技術検証は概ね完了。パートナー企業において当該バイオ製品のマーケティング中。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ― 中長期ビジョンの進捗｜1F 稼ぐエンジン｜生産型バイオファウンドリ｜飼料・農業関係

飼料・農業関係 3製品の進捗を、四半期単位でご説明

凡例 □ 生産技術検証 ■ パイロットテスト ■ 商用サンプル生産 ■ 商用生産 ◆ 2027.9期の主要マイルストーン（P.16）



▶ 現在地｜2026年9月期4Q（2026年9月末）時点の進捗

飼料・農業関係 3製品は、当社および海外OEM候補企業との連携により、各製品で生産技術検証を推進中。

飼料・農業関係 A

・海外のOEM候補企業でのパイロットテスト実施準備

飼料・農業関係 B

・海外のOEM候補企業でラボテスト終了。パイロットテスト準備中

飼料・農業関係 C

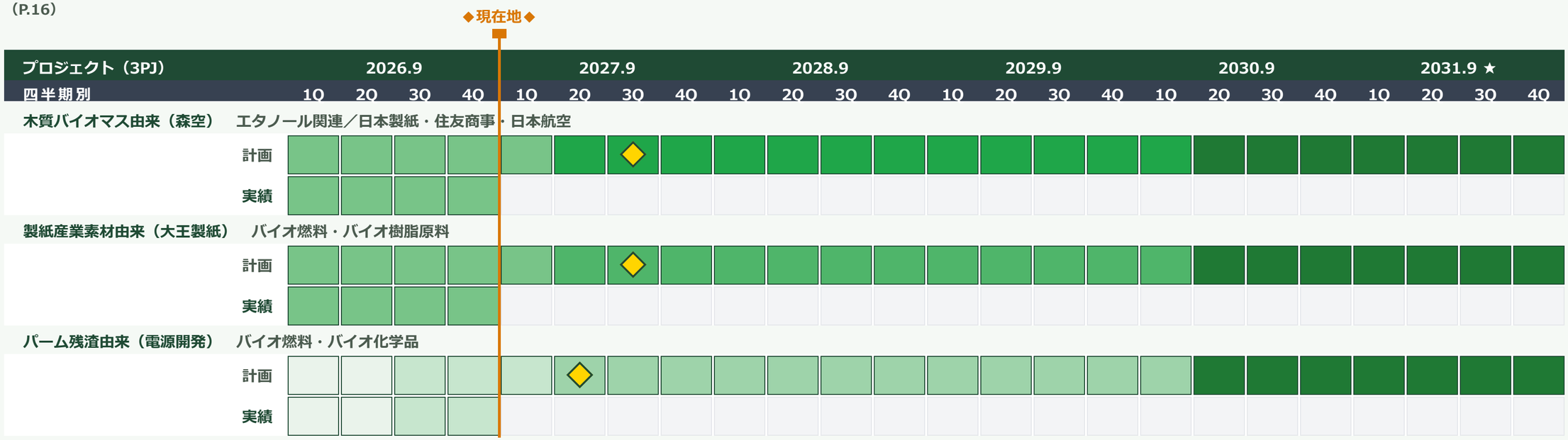
・当社での生産技術検証終了
・自社生産とOEMの両方を検討

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

04 ー 中長期ビジョンの進捗｜1F 稼ぐエンジン｜テクノロジーパッケージ

稼働中の3プロジェクトの進捗を、四半期単位でご説明

凡例 ラボテスト パイロットテスト準備 パイロットテスト ベンチスケールテスト パイロットプラント稼働 セミコマーシャルプラント稼働 コマーシャルプラント稼働 2027.9期の主要マイルストーン（P.16）



▶ 現在地｜2026年9月期4Q（2026年9月末）時点の進捗

木質バイオマス由来（森空）

・セミコマーシャルプラント建設中（2027年稼働予定）。
・ベンチスケールの設備において、セミコマーシャルプラントでの運転条件の最適化を実施中。
・出光興産＆森空バイオリファイナリーが、純国産ATJ-SAFのサプライチェーン構築に向けた覚書を締結。（関連開示資料：2026.5.27）
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/ee6f2dfa/398d/48c4/b36d/a2da9e35a43f/140120260527550053.pdf

製紙産業素材由来（大王製紙）

・パイロットプラント建設中（2027年稼働予定）。
・ベンチスケールの設備において、GWEプロセスによる連続運転テスト中。（関連開示資料：2026.7.2）
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/cbd6798e/90bf/4a7d/a382/b11b53e6c2bb/140120260702586706.pdf
・バイオリファイナリーの事業化に向けた共同研究開発契約における酵素評価項目を追加。（関連開示資料：2026.9.25）
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/267de73b/a660/49df/9544/e4dbecfe9bce/140120260925540057.pdf

パーム残渣由来（電源開発）

・パイロットテスト準備（2027年テスト開始）。
・インドネシア現地でパートナー企業と共同で検証試験。（関連開示資料：2026.10.9）
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/3328bfc6/1438/43a4/af23/1f6aca74539b/140120261009548295.pdf

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

05 ー 株主・投資家の皆さまへ｜IRコミットメント

株主・投資家の皆さまへ

2026年9月期は、**経営指標（売上高＋営業外収益）が9期連続の増加**となり、業績予想を上回って着地し、
経常利益は2期連続の黒字となりました。

建設仮勘定 +626百万円、森空バイオリファイナリーへの出資 +86百万円が示す通り、製紙産業素材由来（大王製紙）と木質バイオマス由来（森空）の両プロジェクトで、**実証プラント（パイロットプラントとセミコマーシャルプラント）の建設と事業化への投資**が着実に進行中です。

コミットメント 01 （単位：百万円）

2027年9月期業績予想の達成

経営指標 **1,853**　売上高 **1,343**
営業利益 **△350**　経常利益 **158**
当期純利益 **131**　EBITDA **343**

コミットメント 02

実証プラントの稼働

木質バイオマス由来（森空）のセミコマーシャルプラント、製紙産業素材由来（大王製紙）のパイロットプラントの稼働（2027年予定）

コミットメント 03 （単位：百万円）

2031年9月期目標の達成

売上高 **2,561**　営業利益 **334**
EBITDA **650**

※中長期ビジョン（2026年7月15日公表）P.9、1F単独

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

05 ー 株主・投資家の皆さまへ｜公式Xのご案内

X（旧Twitter）公式アカウントを開設しました

適時開示資料や決算情報に加え、当社の取り組みをお知らせしてまいります。ぜひフォローいただき、当社の最新情報をご覧ください。



公式Xアカウント概要

アカウント名

Green Earth Institute

ユーザー名

@GEI_20260925

URL

x.com/GEI_20260925

QRコードからもご覧いただけます

ご利用の際は「SNS公式アカウントの利用に関するガイドライン」をご確認ください。
gei.co.jp/ja/sns-guidelines.pdf

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

05 ー 株主・投資家の皆さまへ｜お知らせ（1／3）

2026年9月期 決算説明資料・中長期ビジョン進捗レポート（動画）のお知らせ

2026年11月16日（月）13時に当社ホームページにて本資料の説明動画を掲載いたします。

掲載日時

2026.11.16

（月）13:00

掲載元

Green Earth Institute 株式会社

説明動画・詳細情報

→

下記URLよりご確認ください

https://gei.co.jp/ja/

説明動画を通じて、決算内容と中長期ビジョンの進捗をご説明いたします。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

05 ― 株主・投資家の皆さまへ｜お知らせ（2／3）

個人投資家向け
決算説明資料・中長期ビジョン進捗レポート説明会

本資料の内容を、経営陣が直接ご説明します。

開催日時

2026.11.17

（火）13:00 ～ 13:45

主催

みずほインベスター・リレーションズ株式会社

**お問い合わせ・
お申し込み**

下記URLよりお申し込みください

https://j-iris-irm.smktg.jp/public/seminar/view/6898

「研究のGEI」から「稼ぐGEI」へ。その歩みを、ぜひ説明会で。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

05 ― 株主・投資家の皆さまへ｜お知らせ（3／3）

機関投資家向け
決算説明資料・中長期ビジョン進捗レポート説明会

機関投資家の皆さまには、約4週間にわたる個別ミーティング期間を設けております。

開催期間

2026.11.17（火）～2026.12.14（月）

主催

Green Earth Institute 株式会社

お問い合わせ

→

下記URLよりお問い合わせください

https://gei.co.jp/ja/contact.php

経営陣との直接対話の場をご用意しています。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

05 — 株主・投資家の皆さまへ | 最後に

The Future is Green.

GEIの新章が、ここから始まります。

01
石油依存を、
ひっくり返す。

02
卓越した研究開発力
RITE時代からの30年。

03
2階建ての
成長エンジン。

04
ディープテックが、
キャッシュを生む。

05
IPO 2.0
「稼ぐGEI」への転換。

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.

05 ー 株主・投資家の皆さまへ｜免責事項

免責事項および将来見通しに関する注意事項

1. 将来予想に関する記述について

本資料に記載された業績予想・将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断であり、リスク・不確実性を含んでいます。実際の業績は、経済情勢・市場動向・為替相場・技術開発状況・競合他社との関係等、様々な要因により、これら将来予測とは大きく異なる可能性があります。

2. 中長期ビジョンおよびパイプライン進捗について

本資料に記載された中長期ビジョン（2031年9月期目標）、新規パイプライン（P.18～24）およびパイプライン進捗表（P.25～29）は、現時点における計画に基づくもので、プロジェクトの進捗状況・技術開発・パートナー企業との交渉状況等により、実際のマイルストーンは前後する可能性があります。

3. 投資判断について

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終判断は、投資家ご自身の責任においてお願いいたします。

4. 他社情報について

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、その正確性・完全性を当社が保証するものではありません。

Green Earth Institute 株式会社

東京証券取引所スタンダード市場｜証券コード 9212｜https://gei.co.jp/ja/

© 2026 Green Earth Institute Co., Ltd.